

岡山市の方針(案)について

資料 1
平成26年2月24日
こども企画総務課

運営方式について(案)

運営委員会方式(現行)

メリット

- ・それぞれの地域の実情に応じた対応が可能。
- ・「地域の子供は地域で育てる」という市民協働の基本理念。

課題

- ・各クラブの提供サービスが均一でない。
- ・経理事務・指導員の人員確保等、クラブの負担が過重。

新制度 市町村が実施主体

地域に深く根付き定着している運営委員会の組織を活用しながら
引き続き円滑な運営方式を検討

	運営委員会への委託方式	運営委員会への補助方式(現行)	運営委員会を指定管理者とする方式
メリット	<ul style="list-style-type: none">・市と運営委員会の役割分担が明確・運営委員会の事務負担軽減(入所決定等)・均一なサービス提供(利用者負担等)	<ul style="list-style-type: none">・各地域の実情に合わせた自主的な運営が可能・地域で子どもを守る意識の醸成・現行維持のため混乱がない。	<ul style="list-style-type: none">・市と管理者の役割分担が明確・均一なサービス提供(利用者負担等)・経費削減が期待できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・各地域の実情に合わせた柔軟な運営が行いにくい。・毎年契約締結が必要	<p>運営を各運営委員会で行うため</p> <ul style="list-style-type: none">・利用料金や提供サービスが異なる。・指導員の確保が困難	<ul style="list-style-type: none">・指定管理者制度は本市のように学校施設内にある児童クラブにはなじまない。 <p>↓</p> <p>指定管理者制度は制度的に不可</p>

市が実施主体として事業を実施
運営は現行の補助方式を継続

< 市が行う支援 >

- ・標準的な運営基準等の設定 → 提供サービスの均一化
- ・指導員の確保に関する支援
- ・指導員の資格取得、研修受講支援
- ・人件費を含む経理に関する支援
- ・その他必要な事務に関する支援